

演奏解釈と作曲の関係をめぐって

◇講座概要◇

現在、多くの作曲家は自らの作品をプロフェッショナルな演奏家に依頼して発表します。作曲家は自分の理念を実現すべく最善を尽くしますが、しかしながら実際に音に出して表現する「演奏家」の存在が大変重要であることは言うまでもありません。時として、演奏家の想像力により「新しい演奏法」が生み出され、作曲家の考え方を一変させてしまったり、「作品」のその後の価値を決定づけてしまうことも珍しくありません。「今生きている」作曲家と演奏家がともに作業可能なのは、言うまでもなく「現代の音楽」であるからで、それは最もエキサイティングなことであると思います。そこで今回は「演奏家」に焦点をあてた企画を行いたいと思います。

この企画では、先ず「演奏家がどのように現代の作品を解釈して実現していくのか」経験豊かな演奏家にご登壇頂き、そのアプローチについてお話頂きます。また、過去の「演奏家」について考えるという視点から、ピアニストで作曲家のデイヴィット・チューダーの講座も設けたいと思います。チューダーは、1950年代以降のセリー音楽や図形楽譜等の演奏解釈に多大な影響を与えた人物であり、チューダーの仕事を見直すことは、これから演奏家と作曲家が共にどのような活動をしていけば良いかを探る一つのヒントになるに違いありません。最終回では、作曲家グループ Path とのタイアップ企画として、各作曲家が自作品の演奏と今後の可能性について語ります。最後はお客様も含めたディスカッションを行い、これまでの講座を総しつつ、議論していきたいと思います。(星谷丈生 企画)

◆講座日程◆

	日時	タイトル	講師
第1回	2015年10月31日(土) 14:00-16:00	シュトックハウゼン作品の演奏解釈	松平 敬 氏
第2回	2015年12月26日(土) 14:00-16:00	演奏者デイヴィット・チューダーの音楽的思考を探る	澁谷 政子 氏
第3回	2016年1月9日(土) 14:00-16:00	現代ドイツの室内楽における打楽器演奏について	渡邊 理恵 氏
第4回	2016年2月13日(土) 14:00-16:00	4人の作曲家によるプレゼンテーション(作曲家グループ Path とのタイアップ企画)及びディスカッション	木下正道、渡辺俊哉、徳永崇、星谷丈生の4氏

◎ 受講料は各回 2,000 円(学生 1,500 円)、但し最終回のみ 1,000 円(学生券は無し)。

【お問い合わせ】 info@buncademy.co.jp

『シュトックハウゼン作品の演奏解釈』

シュトックハウゼンは、生涯一貫して、様々な新しい概念を彼の作品に導入し続けた。音楽界の伝統や慣習にとらわれない発想も多く、作品の実演にあたっては、しばしば演奏家の献身的ともいえる努力を必要とする。しかしそれが、彼の「教祖」的なイメージと結びつき、彼の音楽そのものに対する誤解へとつながっていることも否めない。本講座では、シュトックハウゼンが演奏家に何を求めたのか、逆に演奏家がシュトックハウゼンにどのようなインスピレーションを与えたなど、シュトックハウゼン作品の演奏解釈にまつわる問題を、生前のシュトックハウゼンとも関わりのあった松平が、実体験もふまえながら多角的に考察していきたい。

(文責：松平 敬)

◆ 講師：松平 敬 (まつだいら たかし) 氏 プロフィール



バリトン。東京芸術大学、同大学院に学ぶ。現代声楽曲のスペシャリストとして、松平頼暁、湯浅譲二、西村朗、近藤譲、三輪眞弘など80作以上の新作を初演する。全曲無伴奏独唱曲によるリサイタルなど、独創的な自主公演も積極的に開催している。サントリー芸術財団サマーフェスティバル2012では、クセナキス『オレスティア』の壮絶な演奏が大きな話題を呼んだ。9度にわたるシュトックハウゼン講習会参加の経験を生かし、『私は空を散歩する』、『歴年』(洋楽版)など、彼の大作の日本初演にたずさわる。ソロCDとして、多重録音で一人アカペラを実現した『MONO=POLI』(平成22年度文化庁芸術祭・優秀賞)、『うたかた』、一柳慧、ケージなど、通常の五線譜を使用しない作品ばかりを集めた『エクステンデッド・ヴォイセス』を発表。今年の8月にはチューバの橋本晋哉氏とのユニット「低音デュオ」の1stアルバム『ローテーション』を発表。現在、聖徳大学、文教大学講師。

【日時】2015年10月31日(土) 14:00-16:00(開場 13:30)

【会場】BUNCADEMY (東急東横線 学芸大学駅から徒歩1分)

〒152-0004 東京都目黒区鷹番 3-1-3 リエール鷹番 303号

【受講料】2,000円(学生1,500円) ※ 先着20名

【ご予約・お問い合わせ】info@buncademy.co.jp